

経営改善に数値目標

「研究より教育を重点」

横浜市の将来像を検討する中田宏市長の私的諮問機関「市立大学の今後のあり方懇談会」（七人の橋爪大三郎座長（東工大教授）は、十七日、大学の目指す方向として研究よりも教育に重点を置き、専門性と実践的教

養を身につける「ブラクティカルなりペララー・ツ・カレッジ（実践的な国際教養大学像）」を掲げたほか、経営改善に具体的な数値目標などを盛り込んだ改革案を中田市長に答申した。答申は大いに指摘し、市長は「私も

れ、今秋までに独自の改革案がまとめられる方針。二閣連記事26面に

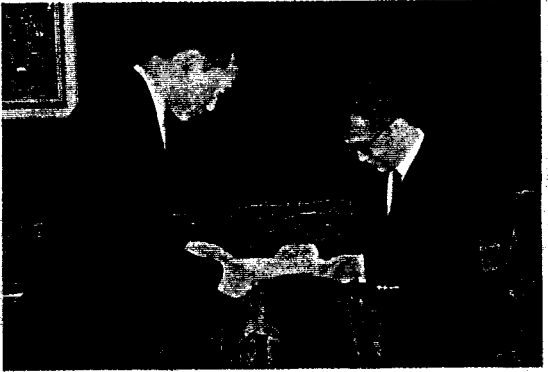
橋爪座長は「市の財政状況を踏まえれば現状のままでは市大が存続する道はまったく考えられない」と指摘し、抜本的な改革を提言。市長は「私も

認識は同じ。答申を基に改革に着手したい」と答えた。

答申では市大の累積負債が二〇〇一年度時点で約千四百四十億円に上ると

説明。その上で①大胆な改革で生まれ変わり存続②有力私大に売却③私大に転換④廃校のこのまま

で検討してきた四選択肢すべてを挙げた。ただ、



中田市長に「市立大学の今後のあり方」の答申を手渡す橋爪座長（右）＝市庁舎

四選択肢の中では、現職職員らから指摘のある病院などの資産評価が含まれていないなどの点

実性が高い（橋爪座長）として改革を伴う存続案を提言。累積負債を切り離した上で、学部などの運営に関して一般会計からの繰入金を三年後に約六十億円に圧縮し、五年後には収支均衡を達成すると明記。病院は収支構造を改善し、地方公営企業法で定めた基準内繰入金（〇一年度で付属病院三十一億円、センター病院三十八億円）の範囲内に抑えていくなどとした。

さらに三年以内で実現すべき項目として三十九点を列挙。商学部、国際文化学部、理学部の三学

小林紙工
日/出 242-3388

「ハードルは高くない。横浜市大の現状を考えれば適度な目標だ」。橋爪大三郎座長は答申の改革案をこう評した。ただ「廃校」も視野に入れた答申は関係者にとって衝撃的な「おもて」の内容ではない。あり方懇談会では市大の存在理由が徹底的に

追及され、借金漬け（森谷伊三男委員）と指摘される経営状況が明らかに

今回の答申に先立ち大学側からは「迅速すぎる」と、大学内部の委員が「い」など批判や不満も漏

なるよう真摯（しんしん）に受け止めてほしい」とも幅広く取り入れ、論議の絞りこまれた。市民、納税者が納得するのではな

は、市大はどんな形であれ、存続できない。「再生」への道筋を明確に示せるか。市大当局に課せられた責任は重

みとともに地域の大学としてさまざまな分野で役割を担うことも、多くの卒業生を各界に輩出してまいりました。この交差点を機に建学の精神に立ちかえり、変革する社会の要請に応える教育研究と大学運営を目指し、十

「再生」への道筋明示を

確かに答申で示された各種のデータをみる限り、その大学内部に持ち込まれる。関係者だからこそ、最後の「日本の大学改革」できる改革案を提示するのリーディングケースと

れた。だが今後、答申はくことも望まれる。塩谷安男委員は会合の

確に示せるか。市大当局に課せられた責任は重

「改革を具体的に反映」 学長

横浜市大の小川憲一学長は二十七日、答申についてコメントを発表した。

同学長は「答申では横浜市が大学を有する意義を存続するための条件、改革の方針、改革の具体

策といった多岐にわたった提言をいただきました」と前置き。「市立大学ではこれまで学内の将来構想委員会や大学改革戦略会議において独自に大学改革に向け検討を重ねてきた。答申を真摯に

受け止め、今後市立大学が策定する「中期目標・中期計画」に答申に掲げられた改革の具体的な内容を反映させてまいります」とした。

その上で「市立大学は長い歴史の中で横浜の歩

一部を一学部に通合するほか、市民向けの生涯学習講座などを発展させる」となどを求めている。

組織・人事については教員の年俸契約制や任期制・公募制を導入し、財政改善では費用対負担の

びびり 巻く懸念、不安

中田市長へ手渡された「横浜市立大学の今後のあり方懇談会」（座長・橋爪大三郎東京工業大学教授）の答申。教員や職員らは、答申案とほとんど同じ内容を冷静に受け止

横浜市大 あり方懇

めつつ、「累積負債論は成立しない」「ハコ物行政のしわ寄せ」「独立法人化後の身分はどうなるのか」と疑問、懸念、不安が交錯した。OBからも気がでないようだ。

（報道部 石川 美邦）

≡ 本記一面上

答申で教員ら反応 累積負債論に疑問も

山嘉夫商学部教授(56)は

「答申を精査して早急に見解を出したい」と公式コメント。答申に踏襲された答申案については「大学改革の最大の理由とされた千四百億円の累積負債だが、実際は市債で賄った市民医療総合センターなどの建設整備資金だ。資産として現存し、丸々市大の累積負債とは論拠として成立しない」と疑問を投げ掛けた。

職員組合もその点を強調する。横浜市従業員労働組合大学支部の丸茂信行支部長(56)は「施設整備に伴う負債は市会の同意を得て執行したものだ。それを市大だけの問題に収めさせるとは論点が違う」と批判。その上で、答申の指摘し

た課題を受け止め、市民に開かれ、活用される市大の在り方について、「教員が中心となり、市民の要望や期待が反映できる議論の場が必要だ」と訴えた。もう一方の、自治労横浜市従業員労働組合大学支部の瀬端国雄支部長(56)は「独立法人化後、職員は公

務員の身分を失うのではという不安がある。配置転換の希望も出ている」と述べた。また、二〇〇二年六月に大学改革の提言を出した、同大OB有志で作る「21世紀シイガル会」黒津高聖代表世話人、事務局の四谷次郎さん(66)は「答申は縮小均衡案で、果たして魅力ある大学になるのか。学費が安く、少子高齢社会のニーズに応える、使い勝手の良い大学になるため、市長や大学当局の論議の行方に注目している」と話した。

望まないと

市立大学の今後のあり方懇談会答申で「3年以内の実現」を求めた改革具体案の主な内容は次の通り。▽教養教育を重視するとともに大学院への進学に重

点を置き、卒業生の学力を保証▽総合理学研究科生体超分子システム科学専攻、医学研究科、木原生物学研究所の再編▽全国自治体が直面する社会的・経済的・行政的課題に取り組むことにも企業や市民ニーズに配慮することを教育・研究のひとつの柱としカリキュラムに明示▽大学の経営形態は独立行政法人とする▽教育・研究の両面に評価制度を導入▽市費による研究費負担は大学が精選した分野を除いて原則として行わない▽入学制度改革を踏まえて徹底した進級・卒業管理制度を導入▽海外の大学と連携し学生が留学し単位を得したり卒業したりできるようにする

市立大あり方懇が答申

改革せねば存続なし

学費値上げなど盛る

横浜市立大学の改革方針を話し合う中田宏・横浜市長の諮問機関「市立大学の今後のあり方懇談会」は27日、検討結果を答申した。「地域の大学」として、市と市民にとつての存在意義は大きい一方、市財政の圧迫も深刻な問題となっているという現状を指摘し、経営、組織、カリキュラムなどの広い分野で抜本的な改革を求める、踏み込んだ内容となっている。

財政圧迫の深刻さ指摘



答申について説明する橋爪大三郎座長＝横浜市役所で

市長に答申を手渡した座長の橋爪大三郎・東工大教授は「市大に対する市民の期待は高い。（答申した改革案の）ハードルは決して高すぎない」と語った。中田市長は「大学の設置者として、答申を改革に生かしたい」と答えた。

答申はまず、市が大学を持つ意義に言及。「公立大学は、国立大学や私立大学と同じではない」とし、大学のある自治体の市民や納税者が合意できるような活動を行うことが必要だと強調した。運営については、市大が累積負債約1140億円（01年度）を抱え、毎年、一般会計から約240億円を繰り入れている

主な改革の具体策

- 大学の目標
 - ・教育と研究のうち教育に重点を置き、高い専門能力と幅広い実践的教養を身につけさせる
 - ・教養教育とともに大学院（MBA、ロー・スクールなど）への進学に重点を置き、学力チェックを厳格化する
 - ・3学部（商学部、国際文化学部、理学部）を一つに統合する
- 市への寄与
 - ・市民の誰もが入学できる「よこはまシティ・カレッジ」を開設
 - ・市などが直面する社会的、経済的課題などに取り組み、企業や市民のニーズに応えることを教育・研究の一つの柱にする
- 大学の組織、人事
 - ・経営形態は独立行政法人に
 - ・経営の責任者は市長が指名し、教育研究に責任をもつ学長と分離する
 - ・学長は教員による互選をやめ、学外者を含む委員会で選ぶ
 - ・独立行政法人化した場合、教員の身分は非公務員型に
 - ・教員は年俸契約を原則とする
 - ・教員（主任教授を除く）は任期制・公募制を原則とする
- 財政改善
 - ・学費を値上げし、新たな財源を確保する
 - ・市費による研究費の負担は原則として行わない。外部資金が得られた場合に研究を進める
- その他
 - ・語学教育やIT教育などは、卒業時の達成レベルを数値目標化
 - ・入試にはAO入試などの新制度を導入
 - ・2～3年の期限をもらった退学制度など、徹底した進級卒業管理制度を導入する
 - ・医学部付属病院は、患者中心の医療を進め、病院経営の責任を明確化するため、学部でなく大学の付属機関とする

ため、市財政を圧迫している」と指摘。「現状のまま存続する道は考えられない」と断じた。今後、進む道として①大胆な改革②私立大学への売却③廃校などを示した。

答申は存続の条件として、抜本的な改革と経営合理化を挙げた。市が運営費の不足分を際限なく補充している現状を「ただちにやめるべきだ」と批判。具体的には、学部（病院を除く）への市一般会計からの繰入額を3年後までに01年度実績の半分（約60億円）にし、5年後にはさらに圧縮して赤字が出ないようにすることを求めた。

懇談会は大学教職、弁護士や公認会計士ら7人の委員で構成。昨年9月から議論を重ねてきた。答申はこの後、市で検討された後、4月から同大がまとめる大学改革計画は9月までにできあがり、市長が承認するかどうかを判断する。

懇談会は大学教職、弁護士や公認会計士ら7人の委員で構成。昨年9月から議論を重ねてきた。答申はこの後、市で検討された後、4月から同大がまとめる大学改革計画は9月までにできあがり、市長が承認するかどうかを判断する。

「市大あり方懇談会」は、27日、最終答申を提出した。中田市長は「現状のままでは、まっとうな道はない」と市大の置か

「市大あり方懇談会」は、27日、最終答申を提出した。中田市長は「現状のままでは、まっとうな道はない」と市大の置か

「市大あり方懇談会」は、27日、最終答申を提出した。中田市長は「現状のままでは、まっとうな道はない」と市大の置か

「市大あり方懇談会」は、27日、最終答申を提出した。中田市長は「現状のままでは、まっとうな道はない」と市大の置か

「市大あり方懇談会」は、27日、最終答申を提出した。中田市長は「現状のままでは、まっとうな道はない」と市大の置か

「市大あり方懇談会」は、27日、最終答申を提出した。中田市長は「現状のままでは、まっとうな道はない」と市大の置か

市大あり方懇談会、大市京京

「市大あり方懇談会」は、27日、最終答申を提出した。中田市長は「現状のままでは、まっとうな道はない」と市大の置か

「市大あり方懇談会」は、27日、最終答申を提出した。中田市長は「現状のままでは、まっとうな道はない」と市大の置か

「市大あり方懇談会」は、27日、最終答申を提出した。中田市長は「現状のままでは、まっとうな道はない」と市大の置か

「市大あり方懇談会」は、27日、最終答申を提出した。中田市長は「現状のままでは、まっとうな道はない」と市大の置か

「市大あり方懇談会」は、27日、最終答申を提出した。中田市長は「現状のままでは、まっとうな道はない」と市大の置か

「市大あり方懇談会」は、27日、最終答申を提出した。中田市長は「現状のままでは、まっとうな道はない」と市大の置か

「市大あり方懇談会」は、27日、最終答申を提出した。中田市長は「現状のままでは、まっとうな道はない」と市大の置か

「市大あり方懇談会」は、27日、最終答申を提出した。中田市長は「現状のままでは、まっとうな道はない」と市大の置か

「市大あり方懇談会」は、27日、最終答申を提出した。中田市長は「現状のままでは、まっとうな道はない」と市大の置か

市大各部統合 3年以内に

横浜市立大の経営改善や組織・人事改革の具体策を検討してきたあり方懇談会が答申

市大教授は、二十七日、市大の放漫な経営体質を改め、三年以内に学部統合など抜本改革を断行するよう

報告する答申を、中田宏市長に提出した。答申は、千四百四十億円の累積債務を抱える市大の実態を踏まえ、現状のままで存続する道は、まっとうな道ではない。廃校の選択肢も残す

べきと、したがって、大学運営経費の不足分を市一般会計からの繰入金額で、まかなう体質を改め、学費の値上げ、人件費や研究費の抑制などの経営合理化策を検討するよう勧告。

さらに、三年以内に行うべき改革策として、学部の統合のほか、①独立行政法人化を旨とする②互選による学長の選出を改め、学外者も含めた委員会で選出③大学院への進学を重視する一などを示した。

「市大あり方懇談会」は、27日、最終答申を提出した。中田市長は「現状のままでは、まっとうな道はない」と市大の置か

「市大あり方懇談会」は、27日、最終答申を提出した。中田市長は「現状のままでは、まっとうな道はない」と市大の置か

「市大あり方懇談会」は、27日、最終答申を提出した。中田市長は「現状のままでは、まっとうな道はない」と市大の置か

「市大あり方懇談会」は、27日、最終答申を提出した。中田市長は「現状のままでは、まっとうな道はない」と市大の置か

「市大あり方懇談会」は、27日、最終答申を提出した。中田市長は「現状のままでは、まっとうな道はない」と市大の置か

「市大あり方懇談会」は、27日、最終答申を提出した。中田市長は「現状のままでは、まっとうな道はない」と市大の置か

「市大あり方懇談会」は、27日、最終答申を提出した。中田市長は「現状のままでは、まっとうな道はない」と市大の置か

「市大あり方懇談会」は、27日、最終答申を提出した。中田市長は「現状のままでは、まっとうな道はない」と市大の置か

「市大あり方懇談会」は、27日、最終答申を提出した。中田市長は「現状のままでは、まっとうな道はない」と市大の置か

「市大あり方懇談会」は、27日、最終答申を提出した。中田市長は「現状のままでは、まっとうな道はない」と市大の置か

「市大あり方懇談会」は、27日、最終答申を提出した。中田市長は「現状のままでは、まっとうな道はない」と市大の置か

「市大あり方懇談会」は、27日、最終答申を提出した。中田市長は「現状のままでは、まっとうな道はない」と市大の置か